

2022年6月21日掲載 輸送経済新聞

各社の現場には、品質や生産性向上のための工夫が随所に凝らされている。荷主サービスの強化につながる自慢の最新施設を写真で紹介する。

フォト
トルボ

わが社の 最新施設



大和ハウス工業「D1」江東深川の2階建て1階の一部を区分所有・特許仕様の両面パスを備える（右手前の建物に第一貨物の営業本部が入居）

第一貨物「東京支店」

首都圏旗艦店が一新

2月、江東区東雲から塩浜に移転・稼働した第一貨物（本社・山形市、米田総一郎社長）の新しい「東京支店」。城東エリアを中心に都内1区と千葉県浦安市、市川市を集配エリアに持つ。1日当たりの取扱物量は発送1,000トン、配達1,000トン。従来のホームと違い柱があり、生産性を落ささないための工夫も凝らす。

（矢田 健一郎）



従来のホームにはなかった柱の陰を有効活用するためパレット貨物置き場になっている



パスは北東面に集配車22台、運搬車15台、南西面に運行車45台、駐車枠は外周に98台分、鍵は効率運用で、例えば集配職の運営と夜勤者に、朝イチの積み込み車両の接車パスを番号で指示し、車両を円滑に回す。専用の誘導員も配置した

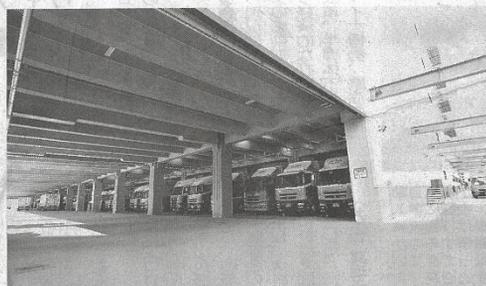


1階食堂は第一貨物専用。日替わり定食、日替わり弁当は500円。営業時間は昼食が午前11時半～午後1時半、夕食が午後5～7時

完全屋内型で雨風の心配がない。ホームに上げずに行う仕分け作業の品質も一層向上した（写真は北面車路）



仮眠所はカプセルホテル仕様。柔らかな明かりの下、ベッドは1部屋に10室、5部屋で計50室を用意



騒音対策で車路には特殊舗装、ホームと荷台の渡り板の鉄板の下にはゴムを敷く。シャッターは半開にしている